

## IV 人権教育

# 市民センターにおける人権学習の取り組み

北九州市立高槻市民センター館長 本原和子

### 1 地域の概要

北九州市では小学校区に一つの市民センターが配置されており、高槻市民センターは、八幡東区にある高槻小学校区のセンターとして、平成13年4月に開館（当初の呼称は「市民福祉センター」）しました。

校区には、この市民センターを拠点として、地域住民のより豊かな生活や保健・福祉等の向上のために活動をしている「まちづくり協議会」があります。高槻まちづくり協議会は平成13年10月に結成され、現在8部会・6委員会で構成されています。

高槻小学校区は4自治区会9町内で、世帯数約1,800、人口5,200で、世帯数・人口は漸次減少傾向にあり、高齢化率は35.3%で市内でも急速に高齢社会を迎えている地域です。住宅の多くは斜面に建てられ、急な坂道が特に高齢者の日常に大きな支障をきたしている地域でもあります。

市民センターの周囲は閑静な住宅街で、すぐ横にほたるの住む清流「槻田川」が流れています。夏になると“たかつきほたる祭”が開催され、連日ほたるの見学者で賑わい、少し奥に入ると里山の原風景が広がり、人と自然が融合された穏やかな環境にあります。

更にこの地域には、まちづくり協議会を始めとして民生委員、福祉協力員、保護司、少年補導員、安全パトロールの皆さん等の活動も活発で、人のために何かをするというボランティア活動をしている方々がたくさんいて、「支え合い、助け合い」の精神が息づいています。



里山の原風景



まちづくり協議会  
里山の会のそば畑



ほたる祭は平成16年に第1回目が開催  
され、地域が一丸となって取り組み、

### 2 人権学習の取り組みの視点

北九州市では平成17年に、「人権文化のまちづくり」をキーワードとした「北九州市人権行政指針」を策定しました。その中で市民センターは、人権に関する学習機会を提供したり、地域で人権啓発等を推進する人材を養成したりするなど、人権を尊重したまちづくり活動が地域に根付き、「人権文化のまちづくり」の拠点となるような環境づくりに努めるとあります。

高槻市民センターもまちづくり協議会と共に、子どもも大人も、若い人もお年寄りも、

この地に住んで本当によかったと思えるまちづくりに取り組んでいます。

そして、市民センターで人権を学ぶということは、このようなまちづくり活動の取り組みの中で、「人と人との温かい繋がりを感じることであり、人権尊重の視点を踏まえた「ふれあい」や「交流活動」を実践していくことであると捉えています。

特に柔らかな人権感覚が育つ子どもたちには、地域の自然や人とのふれあいを通して人権を学んでほしいと思います。

### 3 取り組みの実際

#### (1) 高槻子ども体験教室での活動の中で

##### ① 目的

高槻子ども体験教室は、子どもたちの健やかな成長を願って、市民センターとまちづくり協議会の子ども体験教室委員と一緒に、地域の恵まれた自然や人材などを生かして様々な体験活動に取り組んでいるものです。

##### ② 実践内容



地域の行事「ほたる祭り」  
子どもたちは手作りの山笠で、大人の山笠と参加、連帯感が生まれます。



月2回の子ども卓球教室  
指導者の熱心な指導で、少し難しいけど、やれば出来ることを経験。挨拶のマナーも学びます。大人は良きモデルです。



郷土の槻田川での川の教室。  
珍しい魚がいる？大人も童心に返って子どもたちと楽しさと探究心を共有しました。



川の教室で見つけた生き物について、先生から説明を聞き、“小さいのち”に心をよせます。



この活動では、まちづくり協議会だけではなくボランティアの方々も多く関わっています。子どもの人権が軽んじられ、悲惨な事件が後を絶たない今の社会の中で、地域ぐるみで子どもを大切にし守り育てていこうとする風土作りは、人権文化のまちづくりの第一歩であると思っています。

子どもたちも大人の温かい眼差しを受けて、人への信頼感を深めているのではないかと思います。この大人への信頼感是人権感覚を育てる上で大切です。

里山の会の枝豆畑で・・・

枝豆畑の草取りの手伝い、成長の様子を観察、枝豆が大豆になるの？その大豆で味噌作りを経験しました。

## (2) 人権問題市民講座の開催

◇ 「あの子どもたちの心に触れる対応はないだろうか」と言う地域住民S氏の問いに答えて実施した講座

### ① 目的

非行歴のある子どもたちの更生活動をされている野口氏を講師に「信じ続ければ子どもたちは応えてくれる」と題してお話をしていただき、子どもの人権について考えます。

### ② 実践内容

この講演会を開いたきっかけは、センターに遊びにきて大声だしたり、暴れたりする当校区ではない茶髪の3人の小学生(2, 3年生)を、大声で「やめんか」と注意したS氏の「館長、怒ってばかりではいけないね、あの様な子どもたちにどんなふうに接したらよいか。今度学校の先生に聞いて」との思いを地域と一緒に考えたいと思ったのです。「子どもたちはみんな立ち直りたい、愛されたい、認められたいと思っている」と言われる講師に、S氏は「子どもを見かけで判断するのではなく、まず信じてやることだな」と話されました。



野口氏の講演を熱心に聞くS氏

## ◇ 地元高槻に人権尊重の文化の種をまいてくれた川原尚行医師講演会 ～「一人の力は無力でも、協力すれば大きな力になる」に学ぶ～

川原医師は、地元高槻出身で平成17年からアフリカスーダンで医療活動を開始されました。平成18年にその川原医師にスーダンについて講演をして頂き、多くの子どもがマラリアやコレラで亡くなり、10人に1人が5歳まで生きられない現実があることに、参加者は驚き、涙しました。「一人の力は無力でも、協力すれば大きな力になり、どんな困難でも乗り越えられる」と仲間と共に頑張っておられる川原医師のメッセージは、地元の人権尊重の輪を広げ、センターを中心に支援活動が始まりました。



古本市コーナーは、センター一室に常設して、収益金は川原医師に寄附されます。ここには川原医師に関する資料を展示しています。



地域から集まった衣料品は途上国への衣料支援分、地元ホームレス支援機構に送付する分、バザー用に仕分けする。

## 4 成果と今後の課題

【成果】 市民センターの人権教育は、地域と共にまちづくりをしていく中にあり、日常の活動を丁寧に取り組むことが大切です。また、センターのあらゆる事業や学習活動の中に、人権の視点を持つことの必要性を学んだことは大きな成果でした。

【今後の課題】 人権は日常生活の中にあります。普段の生活全てが人権学習になっているのです。人権を尊重し合うことは、このことを自覚することから始まります。地域でまちづくりをすすめている市民センター・まちづくり協議会・地域の方々などは、この視点にたち、地域住人の現状やニーズに応じた活動を模索していくことが大切です。